

壁開口・床スラブ開口の新設

検証位置

26・27・28号棟各所

昭和40年代から50年代前半に供給した住宅ストックは、40～50㎡台が多く間取りも画一的なため多様なニーズに応えることができません。

これらの住宅ストックでも壁やスラブの開口新設による水平2戸1化やメゾネット化・高天井化を行うことで、空間にゆとりのある住戸のバリエーションを広げることができます。

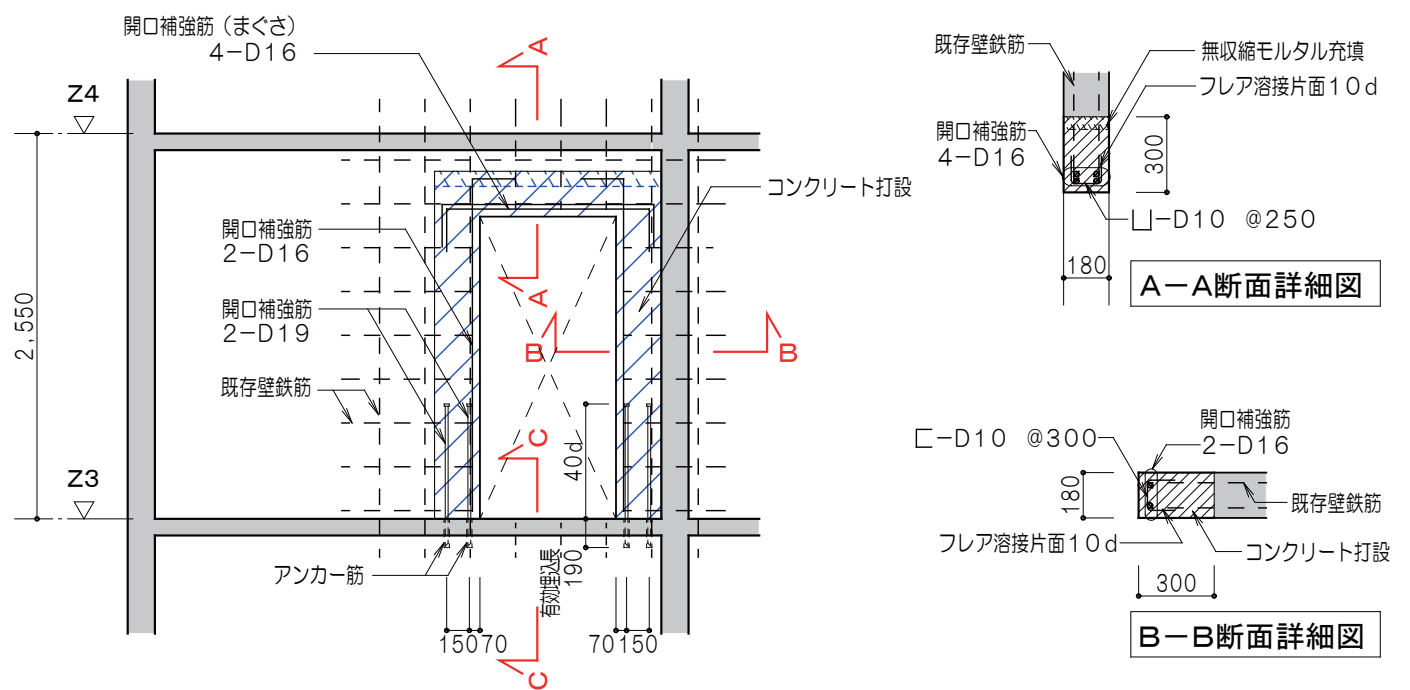
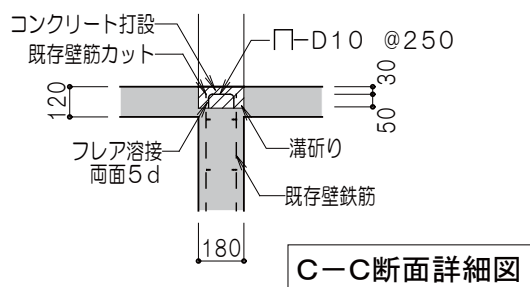
また、壁開口新設は住棟内に新たな動線を設ける際にも有効な手法です。



壁開口の新設



フレア溶接施工状況

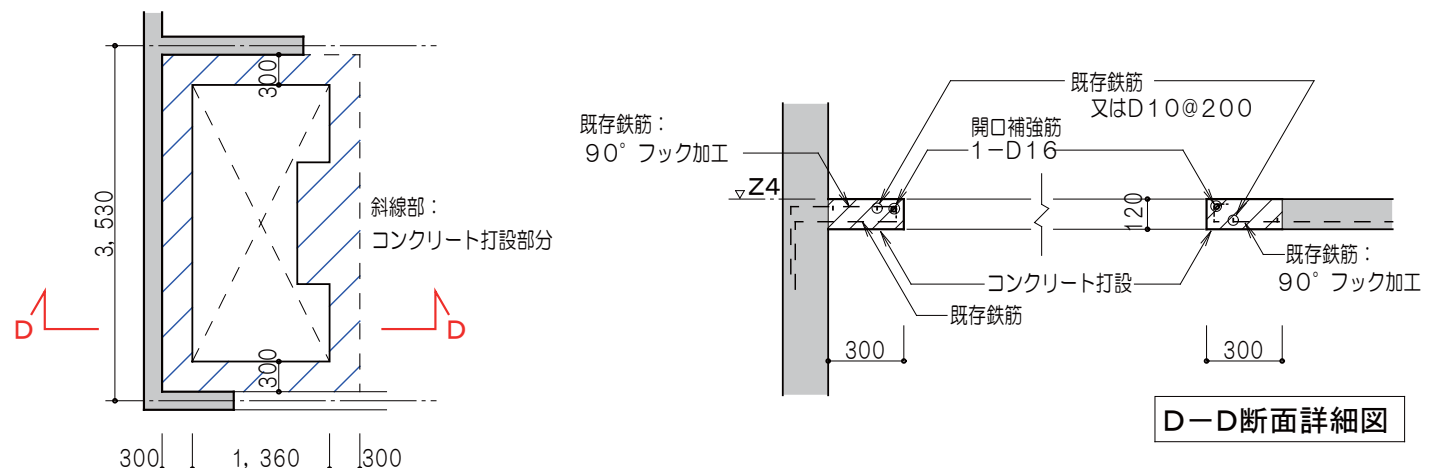


- ・開口部の三方に新たに開口補強筋を配し、下端にはアンカー筋を使用しています。
- ・既存配筋の端部は、コの字状に加工した鉄筋を既存鉄筋とフレア溶接し、定着を確保しています。

床スラブ開口の新設



配筋作業状況



- ・撤去後の既存スラブ端部は、既存鉄筋を残した上で先端にフックを設け、新たに補強筋を配しています。
- ・既存スラブの計算は、3辺固定として計算し、既存配筋で問題がないことを確認しています。